

福岡県居住者の「2015年の暮らし向き」 に関する調査【結果報告書】

2015年2月
株式会社ジーコム 生活行動研究所

1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」登録者に対するインターネット調査

2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

3. 調査時期

平成26年12月12日(金)～12月17日(水)

4. 調査規模

500サンプル

【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	250	50.0
女性	250	50.0
全体	500	100.0

■年齢	件数	構成比(%)
20代	100	20.0
30代	100	20.0
40代	100	20.0
50代	100	20.0
60代以上	100	20.0
全体	500	100.0

■職業	件数	構成比(%)
会社員	155	31.0
公務員	17	3.4
団体職員	10	2.0
会社役員	6	1.2
派遣社員・契約社員	25	5.0
商工自営	22	4.4
農林漁業	1	0.2
自営手伝い	6	1.2
自由業	18	3.6
学生	20	4.0
パート・アルバイト	77	15.4
主婦(主夫)専業	99	19.8
無職	43	8.6
その他	1	0.2
全体	500	100.0

■居住地	件数	構成比(%)
福岡エリア	409	81.8
北九州エリア	51	10.2
筑豊エリア	12	2.4
筑後エリア	28	5.6
全体	500	100.0

【報告書の見方】

- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合や合計値に誤差が生じる場合がある。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

暮らし向き判断指数は回復傾向から急落。高齢層や世帯年収が低い層でのマイナス幅が目立つ。

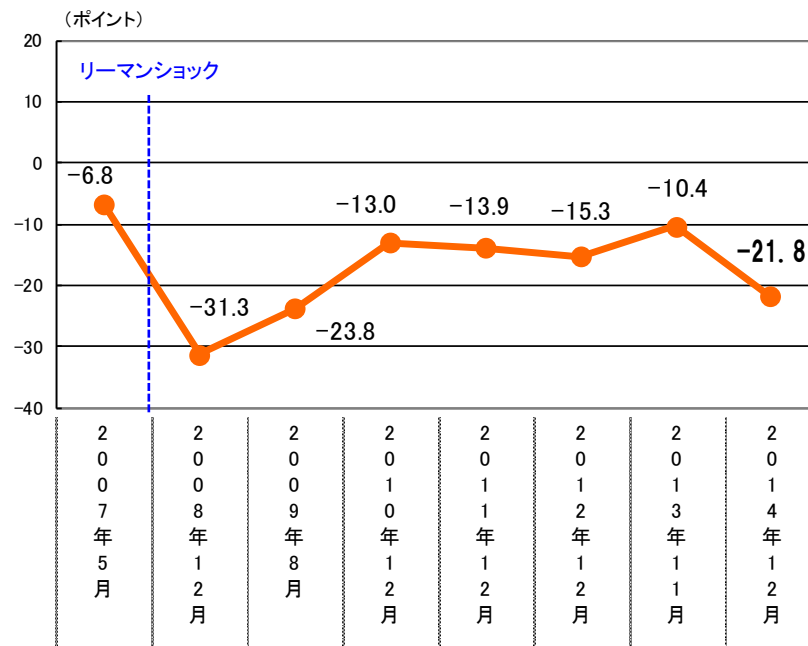
1年前と比べて、暮らし向きが「良くなった」「どちらかというと良くなった」と回答した割合から、「悪くなった」「どちらかというと悪くなった」と回答した割合を減じた『暮らし向き判断指数』は、マイナス21.8ポイント。リーマンショック直後の2008年以降回復傾向にあったが、大きくポイントを落とした。

- ・性別では、男性は女性に比べて、暮らし向き判断指数のマイナス幅がやや大きい。
- ・年代別では、年代が上がるにつれて、暮らし向き判断指数のマイナス幅が大きい。
- ・世帯年収別では、300万円未満の層で暮らし向き判断指数のマイナス幅が大きい。

◆1年前と比べた暮らし向きの変化【単一回答】

	調査数	【%】					【%】		【ポイント】
		良くなった	どちらかという と良くなった	どちらともい えない	どちらかという と悪くなった	悪くなった	肯定層	否定層	
全体	500	4.0	10.6	49.0	25.2	11.2	14.6	36.4	-21.8
性別									
男性	250	3.6	8.8	48.8	25.2	13.6	12.4	38.8	-26.4
女性	250	4.4	12.4	49.2	25.2	8.8	16.8	34.0	-17.2
年代別									
20代	100	5.0	18.0	46.0	21.0	10.0	23.0	31.0	-8.0
30代	100	5.0	13.0	53.0	18.0	11.0	18.0	29.0	-11.0
40代	100	2.0	12.0	51.0	24.0	11.0	14.0	35.0	-21.0
50代	100	7.0	6.0	45.0	27.0	15.0	13.0	42.0	-29.0
60代以上	100	1.0	4.0	50.0	36.0	9.0	5.0	45.0	-40.0
世帯年収別									
300万円未満	126	4.8	7.1	40.5	30.2	17.5	11.9	47.6	-35.7
300～500万円未満	150	2.7	12.0	50.0	26.7	8.7	14.7	35.3	-20.6
500～700万円未満	95	4.2	8.4	55.8	20.0	11.6	12.6	31.6	-19.0
700～900万円未満	49	4.1	16.3	49.0	20.4	10.2	20.4	30.6	-10.2
900万円以上	80	5.0	12.5	52.5	23.8	6.3	17.5	30.0	-12.5

◆暮らし向き判断指数の推移



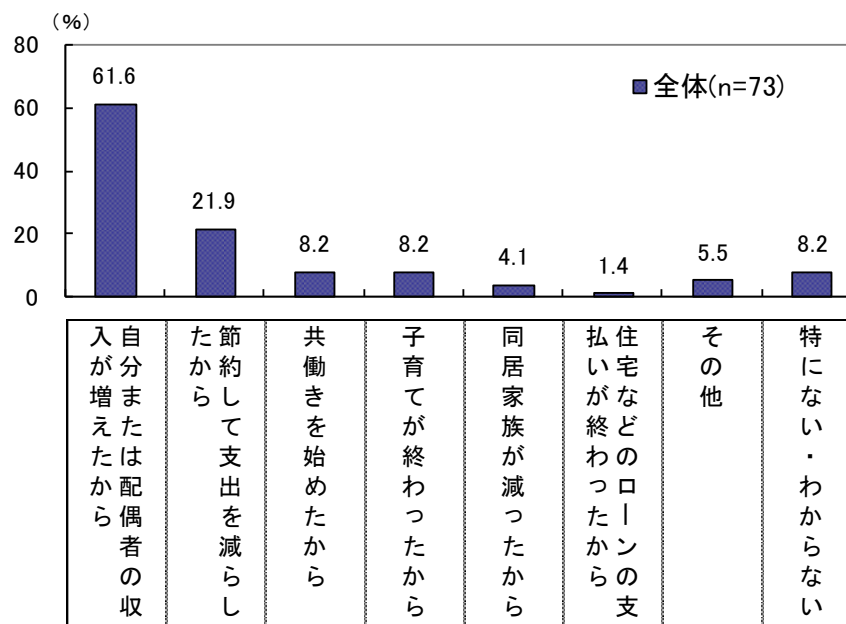
* 肯定層＝「良くなった」＋「どちらかというと良くなった」
 否定層＝「悪くなった」＋「どちらかというと悪くなった」
 暮らし向き判断指数＝肯定率－否定率

節約によって暮らし向きが良くなった層は約2割。

1年前と比べて、暮らし向きが「良くなった」「どちらかというようになった」と回答した人にその理由を聞いたところ、「自分または配偶者の収入が増えたから」が61.6%で最も高く、次いで「節約して支出を減らしたから」21.9%、「共働きを始めたから」「子育てが終わったから」8.2%の順であった。

・性別、年代別、世帯年収別の分析は、サンプル数が少ないため割愛する。

◆暮らし向きが良くなった理由【複数回答】



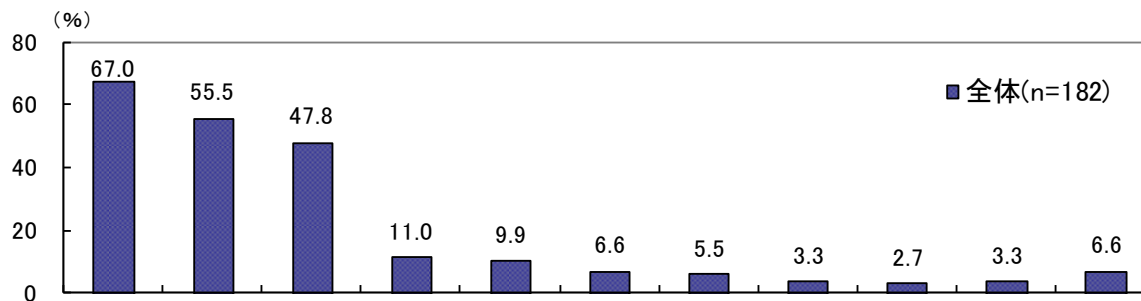
3. 暮らし向きが悪くなった理由

消費税率・物価の上昇と収入減が暮らし向き悪化の大きな要因。

1年前と比べて、暮らし向きが「悪くなった」「どちらかという悪くなった」と回答した人にその理由を聞いたところ、「消費税率が引き上げられたから」が67.0%で最も高く、次いで「物価が上がっているから」55.5%、「自分または配偶者の収入が減ったから」47.8%の順であった。

- ・性別では、女性は男性に比べて「教育費が増えたから」の割合が高くなっている。
- ・年代別、世帯年収別の分析は、サンプル数が少ないため割愛する。

◆暮らし向きが悪くなった理由【複数回答】



	調査数	消費税率が引き上げられたから	物価が上がっているから	自分または配偶者の収入が減ったから	仕事を辞めたから、退職	教育費が増えたから	家族の病気治療や介護が必要になったため	同居家族が増えたから	住宅などのローンの支払いが始まった（増えた）から	別居している家族への送別が必要になったから	その他	特にない・わからない
全体	182	67.0	55.5	47.8	11.0	9.9	6.6	5.5	3.3	2.7	3.3	6.6
性別												
男性	97	67.0	53.6	48.5	14.4	5.2	4.1	4.1	2.1	-	2.1	9.3
女性	85	67.1	57.6	47.1	7.1	15.3	9.4	7.1	4.7	5.9	4.7	3.5

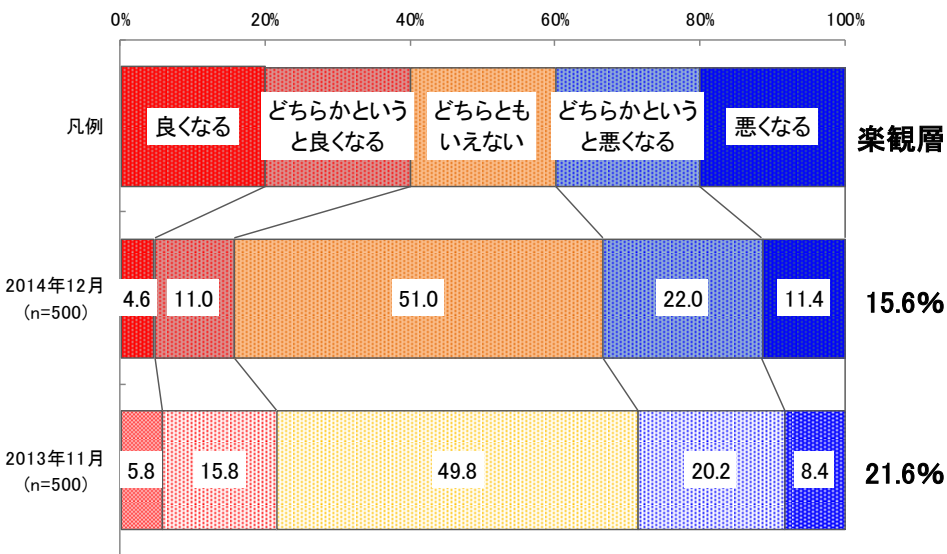
自分の暮らし向きと世の中の景気、共に昨年より楽観層の割合が低くなり悲観層が高くなっている。

2015年の『自分自身の暮らし向き』について、「良くなる」「どちらかというと良くなる」と回答した楽観層は15.6%、「悪くなる」「どちらかというと悪くなる」と回答した悲観層は33.4%となっており、悲観層の割合が楽観層を上回っている。昨年調査との比較では、楽観層の割合は6ポイント下落している。

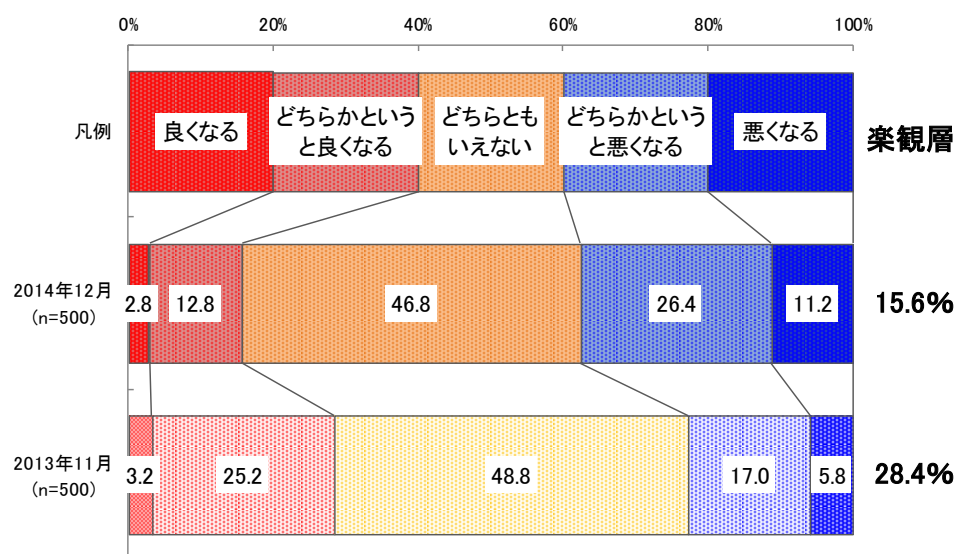
また、2015年の『世の中の景気』についても非楽観層が37.6%となっており、楽観層の15.6%を上回る結果であった。昨年調査と比べると、楽観層の割合は12.8ポイント下落している。

- ・性別では、世の中の景気について、男性は女性に比べて楽観層の割合が高くなっている。
- ・年代別では、自分の暮らし向きについて、20代は他の年代に比べて楽観層の割合が高い。一方、60代以上は他の年代に比べ楽観層の割合が低く、悲観層の割合が高くなっている。また、世の中の景気について、50代は他の年代に比べて楽観層の割合が高い。一方、年代が上がるにつれ悲観層の割合が高くなっている。
- ・世帯年収別では、世の中の景気について、500～700万円未満の層は他の層に比べて楽観層の割合が若干高く、悲観層の割合が低くなっている。

◆2015年の自分自身の暮らし向き予想【単一回答】



◆2015年の世の中の景気予想【単一回答】



* 楽観層 = 「良くなる」+「どちらかという と良くなる」、悲観層 = 「悪くなる」+「どちらかという と悪くなる」

4. 2015年の暮らし向き予想

◆2015年の自分自身の暮らし向き予想【単一回答】

◆2015年の世の中の景気予想【単一回答】

		調査数	【%】				【%】		
			良くなる	どちらかという と良くなる	どちらかとい えない	悪くなる	楽 観 層	悲 観 層	
全体		500	4.6	11.0	51.0	22.0	11.4	15.6	33.4
性別	男性	250	5.6	11.6	46.4	22.8	13.6	17.2	36.4
	女性	250	3.6	10.4	55.6	21.2	9.2	14.0	30.4
年代別	20代	100	6.0	19.0	54.0	12.0	9.0	25.0	21.0
	30代	100	6.0	11.0	47.0	27.0	9.0	17.0	36.0
	40代	100	3.0	12.0	54.0	22.0	9.0	15.0	31.0
	50代	100	7.0	9.0	50.0	20.0	14.0	16.0	34.0
	60代以上	100	1.0	4.0	50.0	29.0	16.0	5.0	45.0
世帯年収別	300万円未満	126	4.0	9.5	50.0	19.0	17.5	13.5	36.5
	300～500万円未満	150	4.0	10.7	51.3	23.3	10.7	14.7	34.0
	500～700万円未満	95	7.4	11.6	44.2	26.3	10.5	18.9	36.8
	700～900万円未満	49	6.1	10.2	55.1	22.4	6.1	16.3	28.6
	900万円以上	80	2.5	13.8	57.5	18.8	7.5	16.3	26.3

		調査数	【%】				【%】		
			良くなる	どちらかという と良くなる	どちらかとい えない	悪くなる	楽 観 層	悲 観 層	
全体		500	2.8	12.8	46.8	26.4	11.2	15.6	37.6
性別	男性	250	4.0	16.4	44.8	22.4	12.4	20.4	34.8
	女性	250	1.6	9.2	48.8	30.4	10.0	10.8	40.4
年代別	20代	100	3.0	9.0	56.0	23.0	9.0	12.0	32.0
	30代	100	3.0	12.0	52.0	23.0	10.0	15.0	33.0
	40代	100	3.0	13.0	49.0	26.0	9.0	16.0	35.0
	50代	100	4.0	20.0	35.0	29.0	12.0	24.0	41.0
	60代以上	100	1.0	10.0	42.0	31.0	16.0	11.0	47.0
世帯年収別	300万円未満	126	2.4	5.6	50.8	25.4	15.9	7.9	41.3
	300～500万円未満	150	2.7	15.3	43.3	28.0	10.7	18.0	38.7
	500～700万円未満	95	5.3	16.8	49.5	20.0	8.4	22.1	28.4
	700～900万円未満	49	2.0	16.3	40.8	34.7	6.1	18.4	40.8
	900万円以上	80	1.3	12.5	47.5	27.5	11.3	13.8	38.8

* 楽観層＝「良くなる」+「どちらかというと良くなる」、悲観層＝「悪くなる」+「どちらかというと悪くなる」

発行元：株式会社ジーコム 生活行動研究所

福岡市博多区古門戸町2番4号 KSコモンドビル4F

TEL 092-283-2085

FAX 092-262-6110

URL : <http://www.gcom-net.co.jp/>

E-mail : inq@gcom-net.co.jp